

桃井三丁目防災公園街区整備事業地の変遷と
事業地内居住者・近隣既成市街地住民の意識と評価の比較研究

Changes in the "Momoi 3-chome Disaster Prevention Park Urban Area Development Project "Site and Comparative Study of the Attitudes and Evaluations of Residents in the Project Site and Residents in the Neighboring Built-up Areas

○濱田健太郎¹, 小木曾裕²
Kentarō Hamada¹, Yutaka kogiso²

Abstract : In this study, we confirmed the transition of the "Momoi 3-chome Disaster Prevention Park Urban Area Development Project" and the opinions and evaluations of each resident, and were able to capture the value and issues of the project.

1. 背景・目的; 阪神淡路大震災以降, 防災公園の必要性は高まり, 近年では「防災公園学校」や不燃化まちづくりと防災公園整備等の防災公園と周辺市街地を一体的に整備し防災性向上を図る事業が行われた^[1].

これらの背景より, 防災公園と周辺既成市街地の一体的整備に対する分析は都市の更なる防災性の向上に大きく寄与すると考える. こうした認識のもと, 防災公園の既往研究^[2]は確認できたが防災公園と周辺既成市街地の一体的整備に関する研究は見られない.

そこで, 本研究では平成11年第2次補正予算で閣議決定された「防災公園街区整備事業(以下防災公園事業)」^[3]に着目し, 事業に対する事業地内居住者と近隣既成市街地住民の意見・評価を比較研究することで, 事業の価値と更なる発展を見出すことを目的とする.

2. 調査方法; 調査概要を Table.1 に示す.

3. 結果と考察; 本研究対象事業を「桃井三丁目防災公園街区整備事業(以下桃井防災公園事業)」とし, 結果と考察を示す.

整備市街地と公園の位置関係, 整備市街地の施設・事業概要, 公園の整備概要等を Figure.1 に示す.

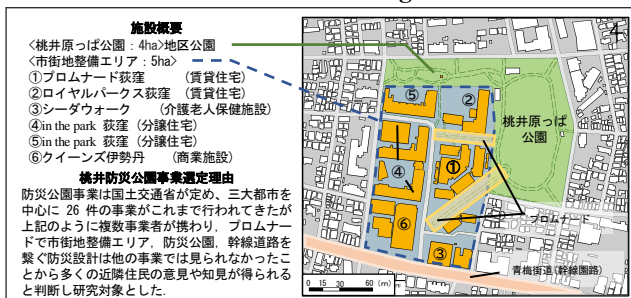


Figure.1 Summary of the study place [Prepared by the author]

Table.1 Outline of the survey [Prepared by the author]

調査方法	概要	
文献調査	桃井中央公園基本計画書	桃井原っぱ公園整備にあたり, 防災設計の詳細・コンセプト・プロムナードと公園の位置関係等を本資料で把握した。
	防災公園技術ハンドブック	ヒアリング時に本書物を使用したことが分かり, 桃井原っぱ公園と比較を行い, 具体的な防災効果・設計を整理した。
ヒアリング	杉並区役所みどり公園課	桃井原っぱ公園にあたり, 従前の土地利用の変化・継承樹木の位置, 公園のコンセプト等に関して質問した。
	UR都市機構 遠隔課	市街地エリアの景観や建築設計に関して質問した。また, 公園と市街地エリアの位置関係等についても調査した。
アンケート	A	事業地から500m~1km内の居住者 回収数 43/200 通 (回収率 21.4%)
	B	事業地から0m~500m内の居住者 回収数 61/200 通 (回収率 30.5%)
	C	事業地内居住者 回収数 120/500 通 (回収率 24%)

3-1. 桃井防災公園事業の変遷と現在との関係性;

1932(昭和7)年中島飛行機が現在の桃井防災公園事業地の一部を取得した. 戦後, 工場の機能を生かし様々な変身を遂げ, 1966(昭和41)年日産自動車と合併し, その変遷に伴い9haの工場地帯が形成された. 2001(平成13)年には, UR都市機構が工場跡地として取得し, 現在の桃井防災公園事業地が整備された^[4]事が分かった. また, 事業着手8年後に公園整備が開始されたが, その間「桃井原っぱ広場」として暫定解放されていた事が分かった. 整備にあたり, 青梅街道の交差点と敷地入口との交通計画上の観点, インフラ引き込み計画や新規土地利用配置計画等, 様々な要素を考慮した全体調整の結果から従前の工場の入口と現在の区道部分が重なり, 公園と市街地部分の位置関係が定められている事が分かった. また, 既存防火樹木が在った事から景観にそぐわないものを除いたケヤキ, メタセコイア等^[5](継承樹木)がプロムナードや防火樹木帯等に保存・移植された事が分かった.

以上より, 桃井防災公園事業地の整備は従前の土地利用や既存防火樹木と関りがあり, 桃井防災公園事業の認知に深く関係している事を捉えた.

3-2. 桃井防災公園事業の意匠・防災設計;

桃井原っぱ公園の整備にあたり, 防災公園計画・設計ガイドライン^[6]を参考に整備していることが分かった. 主に園路, 防火樹林帯, オープンスペースでそれが確認できた. 詳細を Table.2 に示す.

また, 市街地部分での集合住宅は東京における「緊急輸送道路沿道建物建築物の耐震化を推進する条例」

Table.2 Comparison of policy and reality [Prepared by the author]

防災設計内容・項目	防災公園計画・設計ガイドライン	実際の防災設計(桃井原っぱ公園) ^[7]
園路	4m以上の幅員整備を推奨している。	基本4mだが, プロムナードから救急病院・桃井第一小学校のルートは緊急車両の通行を考慮し6mの整備である事が分かった。
幹線避難園路	来園者とトラック2台分が通過可能な5m~10mを推奨	幹線避難園路はプロムナードである。青梅街道からの避難を考慮し同幅員の2.5mの整備。
防火樹木	・耐燃火性・難燃性がある樹木 ・遮蔽性があり, 景観に配慮された樹木	イチヨウ, メタセコイア, クス, 桜等を確認した。クスは不明だが, 4条件を満たしている。
防火樹林帯	並列配置や交互列であり, 1~3列の整備を行う	防火樹林帯の配置は3列ノ島配置であり, 遮蔽率は9.4. 7%の最も高い防災設計である。

1: 日本大学・学部・まち 2: 日本大学・教員・まち

の要件を満たした防火建築物等であり、複数事業者が集合住宅を供給するにあたり建築物の分節化や色彩調整による圧迫感の緩和を図る等の景観ガイドラインを作成し整備されている^[7]ことが分かった。また、プロムナードは防災公園に隣接するため公園からの緑やアクティビティの滲みだしを意識し、幅員25mのプロムナード^[7]にケヤキの緑陰を提供できる住環境へと整備されていることが分かった。

3-3. 居住者の変化による意識と評価の比較;事業地内居住者と近隣既成市街地住民の意見・評価の比較を行うため、900通のアンケートを送付し、回収後、設問との関係性を考慮し単純・クロス集計を行い解析した。以降は解析結果と合わせ論述する (Figure.2)。

①属性;全体回収数は224通(回収率24.8%)であった。各エリアの回答数の詳細をTable.1に示す。

②桃井原っぱ公園と従前の土地利用の比較;桃井防災公園事業地の価値を確認するあたり、従前の土地利用等と比較を行った。工場時代・桃井原っぱ広場と桃井原っぱ公園に対する印象比較をそれぞれ行った結果、「桃井原っぱ公園の方が好印象」と回答する居住者が工場時代の場合、A・B・Cそれぞれ82%・85%・72%であり、桃井原っぱ広場の場合、37%・16%・48%であった。以上より、全体として桃井原っぱ公園の評価は従前の土地利用と比べ高かった。また、A・B・C居住者の印象に明確な違いはなかったが、意見の違いを捉えた。B・Cでは「工場は塀で囲まれていて暗かった」・「今の公園は開放的で過ごしやすい」等の意見を確認した。一方、「広場と比較し人工的になった」等やAでは「公園になってからのほうが冬場の泥の飛来が多くなった」等の意見を確認できた。

③防災設計等に対する認知の比較;防災設計・住環境の評価を分析するため、記述された内容を地図でエリアを分析し、実際の利用状況を集計した。(Figure.3)

その結果、全居住者で桃井原っぱ公園・プロムナードの利用が共通して集中している傾向であるが各居住者により事業地の利用方法に変化がある事を捉えた。



Figure.2 Served area and surroundings [Prepared by the author]

Aでは公園目的の方が多く、B・Cでは公園だけでなくプロムナードを利用する居住者を確認した。公園の利用方法で

はランニング・散策等の回答を確認したがプロムナードの場合Cでは「子供がプレイロットで遊ぶ」や「通勤・通学利用」等の意見を確認し、Bでは「スーパーに

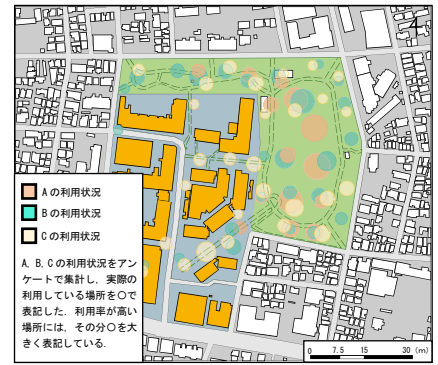


Figure.3 Actual usage [Prepared by the author]

行く通り道」と回答した居住者を確認した。以上より、防災公園と市街地が地域に開放され、居住者により事業地の利用場所・方法に変化がある事から、事業の価値を捉える事ができた。

③各居住者の防災公園事業に対する認知と意見;桃井防災公園事業地の整備は従前の土地利用等と関りがある事から居住者に桃井防災公園事業、中島飛行機工場等の認知を確認した結果、Cの認知率は70%以上と高く、距離が離れた居住者ほど認知は低い事を捉えた。しかし、「父から話は聞いていた」等の意見をA・Bから確認でき、家族間で歴史が受け継がれている事も分かった。また、継承樹木の評価とクロス集計を行った結果、歴史について知らないが「樹木から歴史や名残を感じる」等の回答をCにおいて9%確認でき、継承樹木が微量ながらも変遷の認知に関わっている事が確認できた。

一方で、B・Cでは事業に反対する意見や事業に対して不満を持つ住民が一定数おり、「集合住宅の建設に反対だった」や「子供が増え小学校教育が低下している」等の意見を確認し、事業地内だけでなく周辺環境を踏まえた事業課題を捉えることが出来た。

4. まとめ;従前の土地利用の比較や利用状況の整理等から防災公園事業の価値を捉えた。さらに、事業地内居住者(Cエリア)の意見より「泥の飛来が多い」等の公園と住環境が隣接する事業特有の課題等や、既成市街地住民(A・Bエリア)では「集合住宅の増加により、学校教育が低下した」等の意見が見受けられた。今後は住民と行政・事業者間とのより確かな合意形成と整備後の周辺施設への考慮を踏まえた事業計画がより良い事業の発展に寄与すると考えられる。

5. 参考文献;

[1] 杉並区都市整備部公園緑地課(2002):杉並区における最近の防災公園づくり:グリーンエージ29(4), 18-23 [2] 野島義照(1992):小規模都市公園に期待される地震時の防災機能について:日本都市計画学27(5), 559-564 [3] 舟引敏明(2002):都市整備団が行う防災公園街区整備事業について:グリーンエージ29(4), 12-17 [4] 杉並区産業推進センター 観光係:区立桃井原っぱ公園:杉並学倶楽部<https://www.suginamigaku.org/>, 2021.7.19更新 2021.3.8参 [5] 独立行政法人都市再生機構(2016):DREAMS CONNECT:独立行政法人都市再生機構, 14pp [6] (財)都市緑化技術開発機構(2000):防災公園技術ハンドブック:(株)環境コミュニケーションズ, 257pp [7] 杉並区都市整備部公園緑地課(2011):桃井中央公園(仮)基本計画書:杉並区都市整備部公園緑地課